

## 令和5年度 東京都立南葛飾高等学校（全日制課程）学校経営報告

- I 今年度の教育活動の取組の結果と自己評価（○）と来年度に向けた課題と対応策（●）  
II 今年度重点目標の学校経営計画における数値目標と今年度の達成状況（表）

### 1 学習指導の充実

#### (1) 基礎学力の確実に身に付けさせる指導を徹底する。

- 習熟度別授業や少人数編成授業については、計画どおり実施した。試験前を中心に、各教科の補習講座や大学生チューターによる勉強会を開催し、生徒の学力定着に努めた。
- 1学期に英語の基礎講座、応用講座の土曜講習会を実施し、毎回40～70名程度の生徒の参加があった。
- 朝学習について、Classiの活用や基礎力診断テストとの連携をより一層進める必要がある。
- 放課後探究教室、放課後自習室については、参加する生徒が少なく、運営の見直しが必要である。

#### (2) 日本語指導の充実し、在京外国人生徒の学習活動や学校生活を支援する。

- 在京外国人生徒等に向けた支援については、在京生徒支援委員会を中心とした組織的・計画的に支援ができています。日本語の理解に課題のある生徒への日本語指導については、従来の指導に加えて、通訳による入り込み支援など、きめ細かい対応を行った。
- 日本語能力試験（JLPT）N1に4名（昨年度4名）、N2に14名（同13名）、N3に5名（同4名）が合格した。
- 6月に「やさしい日本語」、10月に「在留資格」の教員研修を実施し、教員の指導力向上を図った。
- 日本語の理解に課題のある生徒への対応は、日本語教育のより一層の充実に加えて、各教科の指導においても、個々の生徒の状況に応じた合理的配慮や目標設定の工夫、評価方法の工夫が求められる。また、必要に応じて、特別な教育課程の申請をすべきである。
- 今年度の実践から、在京外国人生徒等が活躍する機会を設けることで、自己肯定感や帰属意識を高めることができると分かった。次年度以降も活躍の機会を組織的、計画的に設けていきたい。

#### (3) 主体的・対話的で深い学びを実現する、組織的な授業改善の取組を推進する。

- 学びの基盤プロジェクトによる授業研究により、研究授業24回、研究協議会4回を実施した。学びの基盤プロジェクトは今年度で終了であるが、本校教員の授業力向上を推進する上で重要な役割を果たした。
- 多くの教員が、個人発表、ペアワーク、グループワーク、ゲーム形式等、生徒がアウトプットする場面を何かしら設定した授業を行っている。
- 授業の目標の明示ができていない授業がまだあることは課題である。また、まとめと振り返りをするための時間を確保することも課題である。

#### (4) 全ての教科・科目において、探究的な学習を取り入れる。

- 9月に探究学習プロジェクトチームを発足し、これまでの探究学習のまとめと来年度以降の探究学習の進め方について検討を行った。令和6年度の総合的探究の時間の年間計画を作成して、実施に向けた準備を進めることができた。
- 令和6年度の各教科・科目の年間授業計画の作成にあたって、1年間の活動の中で必ず探究活動、または探究的要素を授業内で取り入れることとした。
- 令和6年度の授業研究の課題を探究活動として行い、総合的探究の時間等に加え、すべての教科・科目に探究活動または探究的要素を取り入れ、探究活動を教科横断的な取組としていくことが課題である。

#### (5) 社会で必要とされる力を身に付けさせる学習を推進する。

- 学校行事、生活指導、学年行事、「保健」「家庭総合」などの教科活動、養護教諭による活動等、様々な活動をとおして、社会で必要とされる力を身に付け取組を行った。
- 生徒間の人間関係の調整に相当の配慮が必要となる事例がみられる。ソーシャルスキルトレーニングやレ

ジリエンスを高める取組、心理教育等、事前指導を充実させていく必要がある。

| 項 目                                                      | 項目              | 4年度実績                  | 5年度実績                   |
|----------------------------------------------------------|-----------------|------------------------|-------------------------|
| (1) 全員進級、全員卒業（進級率100%、卒業率100%）を目指す。                      | 進級率<br>卒業率      | 96.3%<br>99.1%         | 95.3%<br>96.8%          |
| (2) 研究授業及び研究協議会を年間10回以上実施する。                             | 研究授業<br>研究協議会   | 28回<br>6回              | 24回<br>4回               |
| (3) 学校評価アンケートで「学校の授業は、わかりやすく工夫されていますか」とする生徒の割合を90%以上とする。 | 生徒<br>保護者<br>教員 | 87.5%<br>82.2%<br>100% | 81.5%<br>82.2%<br>94.1% |

## 2 進路指導

### (1) 高い志をはぐくみ、目標に向かって努力する生徒を支援する進路指導を推進する。

- 進路指導部と学年の情報共有や連携が進んでいる。教員の学校評価アンケート「進路指導は、生徒にとって適切なものか」の肯定的割合が令和4年度から11.6ポイント増加して94.1%となっている。
- 学年団は、生徒一人一人の進路希望を実現するためによく努力している。特に3学年担任は、教科担当や進路指導部と連携して、出願支援、面接指導、小論文指導等に粘り強く取り組み、進路決定率93.9%を達成した。
- 探究学習を推進するため、放課後探究教室を週1回開設したが、参加者が少なかった。実施日や目的・内容を整理して伝えることや周知の方法を工夫するなどして、参加者を定着させることが課題である。

### (2) 3年間を見通したキャリア教育体制をより一層充実する。

- 進路指導については、キャリア教育年間計画に基づいて、総合的探究の時間、人間と社会、ロングホームルーム、学期末の特別授業期間等を利用してほぼ計画とおりに実施することができた。
- 進路情報の提供については「進路の手引き」を刊行し、進路意識を高める指導を行った。
- 保護者の学校評価アンケートでは、進路指導に対する評価は概ね旅行であるが、自由意見では「進路に関する情報を学校から提供してもらいたい」などの記述もみられた。保護者との情報共有をさらに工夫していく必要がある。

### (3) 大学進学、看護系専門学校、公務員就職等を希望する生徒への支援体制を強化する。

- 大学へ進学した者は86名であり40%を上回った。学力試験による大学受験をした者は22名であり、うち9名が大学進学を決めている。専門学校への進学は83名（39%）、就職した生徒は15名（7%）であった。就職者のうち1名は公務員（23区）に合格した。
- 在京担当教員を進路指導部に配置し、志望校選定、出願指導等においてきめ細かい指導を行った。在京外国人生徒支援委員会を中心に、学年担任と進路指導部が連携して進路指導の充実を図った。
- 大学進学希望者が増加していることから、より一層、大学進学への支援を行う必要がある。探究学習を推進して総合型選抜につなげることや、1年生のうちから大学等に関する情報を提供していく必要がある。

| 項 目                                                     | 項目                         | 4年度実績                   |                         |
|---------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| (1) 卒業時の進路決定率を90%以上とする。                                 | 進路決定率                      | 93.3%                   | 93.9%                   |
| (2) 学校評価アンケートで「進路学習や進路指導が進路選択の参考になった」とする生徒の割合を90%以上とする。 | 生徒<br>保護者<br>教員            | 89.0%<br>86.6%<br>82.5% | 90.9%<br>84.1%<br>94.1% |
| (3) 4月当初に大学・短大へ進学を希望する生徒の大学・短大への進学率を100%とする。            | 4年制大学進学者<br>一般受検者<br>受験準備者 | 74人<br>25人<br>10人       | 86人<br>22人<br>13人       |

### 3 生活指導

#### (1) より良い学校生活の在り方を生徒とともに考え、実現していく組織的な生活指導を推進する。

- いじめや暴力等を断固許さない指導の徹底については、いじめに関するアンケート調査を年間3回実施し、必要に応じて面談を行って早期発見・早期解決に努めた。いじめに関する学校評価アンケートの肯定的回答の割合が、生徒、保護者、教員とも90%を超えていないことから、いじめについて注意深く観察していくとともに、組織的に対応する体制を再確認していく必要がある。
- 問題行動に対する特別指導については、16件26名であった。生徒指導部と学年が協力して指導にあたり、生徒に変容がみられる指導を行うことができている。
- 頭ごなしに叱る指導を止め、理解して納得させる指導を行うことはほぼ定着した。
- 学校生活におけるルールや社会における諸課題を、生徒に考えさせる機会を設け、生徒が自分たちの生活について考え、意見を交換し、ルールを作っていく活動をさせたい。今年度、校則等のルールの制定や変更の手続きについて定めたので、生徒個人や生徒会からの積極的な意見提示や発案を期待している。生徒が自治活動に参加し、民主主義を経験することができるようにしたい。

#### (2) 規則正しく、安全安心な学校生活を送るための指導、危険を予測し回避するための指導を推進する。

- セイフティー教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室など、年間計画に位置付けて計画的に行っている。
- 自転車通学時におけるヘルメット着用については、年度内に改善を進めることができなかった。次年度は、自転車通学の許可時における指導を強化してヘルメット着用の定着を図る必要がある。
- 年間の延べ遅刻数は、16,521回（一人平均26.3回）であった。2年連続して前年度（11,426回）から大きく増加している。遅刻指導は、学年担任が粘り強い指導を行っているが、学校全体で組織的・計画的に取り組むことが弱かった。次年度は、年度当初から遅刻をさせないための指導を組織的・計画的に行っていく必要がある。

#### (3) 教育相談を推進して、生徒の心を育てるための指導や支援を充実する。

- 毎朝の校門でのあいさつ運動は年間をととして行った。
- SCとYSWを活用した支援体制検証事業の協力校として、スクリーニング等の調査研究に協力してきた。SCやYSWへの相談がすっかり定着した。外部専門家を加えたケース会議の開催、教育相談を加えた生活指導、担任とSC・YSWの連携強化など、組織的な教育相談活動により生徒への支援を円滑に行った事例が多く見られた。
- 次年度は、SCが週1日、YSWが週2日、特別支援心理士が週1日の配置となる。これらの専門家を活用して、個に応じた生徒支援をより一層推進していくことができる。

| 項 目                                                          | 項目              | 4年度実績                   | 5年度実績                   |
|--------------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------|-------------------------|
| (1) 学校評価アンケートで「教員は相談に親身に対応している」とする生徒の割合を90%以上とする。            | 生徒<br>保護者<br>教員 | 92.7%<br>90.7%<br>95.0% | 88.3%<br>90.4%<br>100%  |
| (2) 学校評価アンケートで「時間を守ることに積極的に取り組んでいる」に否定的な回答をする生徒の割合を10%以下とする。 | 生徒              | 11.4%                   | 12.9%                   |
| (3) 学校評価アンケートで「身だしなみに関するルールを守っている」とする生徒の割合を90%以上とする。         | 生徒              | 91.5%                   | 94.0%                   |
| (4) 生徒の遅刻総数4500以下を目指す。                                       | 遅刻総数<br>一人当たり   | 11,426回<br>17.0回        | 16,521回<br>26.3回        |
| ● 学校評価アンケートで「本校のいじめや体罰を防止するための取組は、適切だと思いますか」の肯定的回答の割合        | 生徒<br>保護者<br>教員 |                         | 87.8%<br>82.2%<br>73.5% |

#### 4 特別活動、部活動、その他

##### (1) 体育祭、文化祭(南葛祭)等の学校行事を充実させる。

- 体育祭、文化祭とも満足度についての肯定的回答は、生徒・教員とも高い割合を示している。また、保護者の肯定的回答も増加している。生徒による創意工夫、生徒同士の協力により、学校が一つになるとても充実した行事となった。

##### (2) 生徒会活動を活性化し、生徒の意見を代表し、課題解決に向けて活動するよう指導する。

- 生徒会活動に対する満足度についての肯定的回答は、生徒、保護者、教員とも増加している。今年度、生徒会は、募集活動における受付・誘導、学校紹介、学校見学ツアーの案内など、募集活動の運営に大きく参加した。また、あいさつ運動、三年生を送る会等、自主的な運営を進めている。

##### (3) ホームルーム活動、委員会活動を活性化し、身の回りの課題を生徒自身の力で解決する態度を養う。

- ホームルーム活動は、年間計画を立て計画的に行うことができた。
- 委員会活動は、美化委員会、保健委員会など、学校生活の一端を担って活発に活動する委員会が多くなった。
- 委員会活動については、年間計画を作成し、目標を明確して活動する必要がある。学校生活の改善や行事的活動を核に企画・運営について生徒に考えさせ、自主的運営ができるよう支援したい。

##### (5) 部活動を推進し、目標に向かって努力する心をはぐくむ。

- 部活動加入率は43.0%となり、昨年度から11.0ポイント減少した。この部活動は、活発に活動している部活動もあるので、生徒の参加意識を高め、部活動を活性化していきたい。

##### (6) 部活動、委員会活動、ホームルーム活動を通じたボランティアや地域貢献を推進する。

- サッカー部、陸上競技部、生徒会等を中心に、多くのボランティア活動に参加している。また、1学年全員が葛飾ランフェスタ運営補助員としてボランティア活動に参加し好評を得た。
- 次年度も、地域ボランティア活動への参加を積極的に進め、生徒の自己有用感、自己肯定感をより一層高めていきたい。

##### (7) その他

- 今年度、退学12名、転学15名であった。原級留置き11名のうち3名が転学、6名が退学した。人間関係のトラブルから登校が困難となる例が多かった。特別な支援が必要な生徒や日本語理解に課題がある生徒への支援に課題を残した。
- 不登校防止、中途退学・転学防止のため、学校生活における生徒の心理的安定性を高める取組を強化していく必要がある。

| 項 目                                                 | 項目  | 4年度実績 | 5年度実績 |
|-----------------------------------------------------|-----|-------|-------|
| (1) 生徒の部活動加入率 65%以上を達成する。                           | 加入率 | 54.0% | 43.0% |
| (2) 学校評価アンケートで「学校生活が楽しく充実している」とする生徒の割合を 90%以上とする。   | 生徒  | 93.2% | 89.2% |
|                                                     | 保護者 | 91.5% | 89.6% |
|                                                     | 教員  | 62.5% | 82.4% |
| (3) 学校評価アンケートで「今年度の体育祭が満足できた」とする生徒の割合を 85%以上とする。    | 生徒  | 90.7% | 94.2% |
|                                                     | 保護者 | 77.8% | 88.8% |
|                                                     | 教員  | 97.5% | 97.1% |
| (4) 学校評価アンケートで「今年度の南葛祭が満足できた」とする生徒の割合を 85%以上とする。    | 生徒  | 88.6% | 94.9% |
|                                                     | 保護者 | 76.1% | 88.9% |
|                                                     | 教員  | 95.0% | 94.1% |
| (5) 学校評価アンケートで「本校での生徒会活動は充実している」とする生徒の割合を 80%以上とする。 | 生徒  | 80.8% | 85.5% |
|                                                     | 保護者 | 76.9% | 83.4% |
|                                                     | 教員  | 67.5% | 85.3% |

## 5 学校運営

### (1) 校内の整理整頓を徹底して行い、学習環境、執務環境の美化、整備を進める。

- 安全衛生委員会を月1回定例とし、体面による開催も4回実施した。
- 5S運動を呼びかけ整理・整頓を行った。粗大ごみの廃棄を2回実施して、旧校舎から持ち込んだ什器類の廃棄を進めた。地学準備室の不用品を廃棄して、1回の備蓄倉庫の災害備蓄品を移動した。
- 今後も不要物の廃棄はさらに徹底的に進めていく。生徒用のいす・机の更新を進めるため、中長期計画を作成し、計画的な更新を進めていく必要がある。

### (2) 組織的、自律的な学校運営を推進する。

- 企画調整会議を年間34回、職員会議13回を実施して、組織的な学校運営を行った。職員会議は、Teamsによるリモート開催とし、ペーパーレス化を進めた。
- 学校運営連絡協議会を3回開催した。学校アンケートを実施して集計分析し、学校運営の改善に資することができた。
- 学校運営連絡協議会による学校運営の改善を進めるため、学校の課題に対する専門性を有した人材を協議委員に委嘱するよう検討を進める。

### (3) 経営企画室の学校経営への参画を推進する。

- 自律経営予算については、それぞれの分掌、学年、教科、委員会等が、年間計画に基づき一年間の必要な物品等をすべて申請して編成することとし、校内補正予算は廃止した。これにより、学校経営計画に基づく校長の経営判断による予算執行が容易となり、学校運営の機動性が高まった。

### (4) 服務事故防止研修を実施し、服務事故の防止と体罰の根絶に努める。

- 服務事故防止と体罰根絶のため。年間3回の服務事故防止研修を実施した。
- 服務事故防止研修や体罰根絶の取組を継続して行うとともに、再発防止についての取組を、年間をとおしで繰り返し実施していく。

### (5) 授業公開、保護者会、学校行事等の公開を通じて、開かれた学校運営を推進する。

- 年間2回の授業公開、全学年合計で年間5回の保護者会等を実施した。体育祭、文化祭について、保護者に公開することができた。
- 葛飾区の小中学校新規採用教員の初任者研修（課題別研修）を本校で実施した。

### (6) 大規模災害への備えや防災対策について、組織的な体制を整備する。

- 防災避難訓練は、年4回実施した。消防署と連携して、起震車体験や初期消火訓練を含めた防災避難訓練を実施できた。
- 次年度も、積極的に警察署や消防署等の関係諸機関と連携する。災害の実際に即した実践的訓練となるよう内容を工夫する必要がある。

### (7) ライフワークバランスを推進する。勤務時間外在校時間の短縮に努め計画的な休暇の取得を促す。

- 職員の在校時間の管理を適正に行い、長時間勤務の是正に努めた。
- 教員の年休取得日数は一人平均17.5日、夏休の取得率は98.1%であった。経営企画室の年休取得日数は一人平均14.7日、夏休取得率は95.0%であった。

### (8) 生徒募集・広報活動に組織的、計画的に取り組む。

- 生徒募集は、学校見学会9回、体験授業3回、学校説明会3回、個別相談会2回を実施した。また、外部説明会に6回参加した。本校に直接来校した中学生と保護者は、803組であった。
- 学校見学会や学校説明会等において、冊子「南葛を知ろう」を作成して配布した。また、在京生に向けて学校を紹介するリーフレット、学校生活を紹介するリーフレット等を作成して配布した。
- サンドル相談会(7/9)、かつしか進路フェア(8/3)を本校にて実施した。
- 都立学校を取り巻く募集環境が困難さを増す中、本校を志す生徒に学校の情報をより的確に伝えていく必要がある。生徒にとって魅力のある学校づくりを推進するとともに、広報活動をより一層充実させていく。

| 項 目                                                           | 項目             | 4年度実績                         |                               |
|---------------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------|-------------------------------|
| (1) 推薦 4.00 倍以上、学力前期 1.40 倍以上を目標とする。                          | 推薦<br>前期<br>後期 | 2.6 2 倍<br>1.1 2 倍<br>2.0 0 倍 | 3.2 8 倍<br>1.3 5 倍<br>1.1 8 倍 |
| (2) 学校公開、学校説明会、個別相談会、学校見学会での来校中学生の実数 600 名以上、のべ 1000 名以上を目指す。 | 中学生数<br>のべ人数   | 8 3 3 人<br>1,8 1 0 人          | 8 0 3 組<br>( ー )              |
| (3) 全教員平均で夏休取得率 100%、年休取得 15 日以上を目指す。                         | 夏休<br>年休       | 9 2.9 %<br>1 7.6 日            | 9 8.1 %<br>1 7.5 日            |